

会 議 録

会議名	平成25年度 第4回 相模原市経営評価委員会		
事務局	企画部 経営監理課		
開催日時	平成25年10月10日(木曜日) 午後6時00分～午後8時00分		
開催場所	市役所本庁舎 本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	出席委員10人(別紙のとおり)	
	市	企画部長	
	事務局	5人(経営監理課長 他4人)	
公開の可否	公開可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由	/		
会議次第	<ul style="list-style-type: none"> 1 傍聴者確認 2 議事 <ul style="list-style-type: none"> (1) 事務事業評価に係る建議書(案)について (2) 平成24年度アクションプランの評価について (3) その他 		

主な内容は次のとおり。

- 1 傍聴者確認
- 2 議事
 - (1) 事務事業評価に係る建議書(案)について
事務事業評価の建議書(案)の説明を行い、個別の事業評価(案)及び評価の意見等について、意見を伺った。
 - (2) 平成24年度アクションプランの評価について
平成24年度アクションプランの概要及び評価方法の説明を行い、質疑を行った。
 - (3) その他
次回委員会開催日程の調整を行った。

(以下質疑応答・意見交換 委員の発言、事務局の発言)

(1) 事務事業評価に係る建議書(案)について

頂いた評価を建議書(案)として取りまとめたが、個別事業の評価で評価が拮抗している事業番号13、22、29の3事業を中心に確認いただき、意見をいただきたい。

事業番号5、6についても一番多い評価が5人なので確認をしたい。

事業番号5、6、13、22、29について、個別に確認した後に他の事業に意見があれば確認する。

事業番号5のがん施設・集団検診は、拡充が5人、現状維持が3人、改善・縮小、再構築が各1人だが、ご意見をいただきたい。

がん検診の受診率を上げるのは、改善だと思う。拡充だと他の事業を削ってまで資源を投資することになる。

最新の技術により検診を受けることができれば、早期発見ができ、医療費を抑えることができるので、他の事業を削ってでも行うべきだと思う。

有効な事業を行うには、事業の一部を改善すればよいものもある。改善・縮小は事業が縮小方向に受けとめられる部分もある。

改善・縮小は、縮小的な改善と捉えている。

拡充の意味はどのように捉えているのか。

他の事業を縮小してでも、事業に資源を集中して行う相当重いものと担当課には説明している。

担当課で胃がんの内視鏡の対象年齢を拡充するとしており、内視鏡検査は、エックス線検査に比べると格段に精度が上がるので、拡充の評価をした。

所管課でも有効性がB評価であり、現状においては、初診などの受診率を増やすための改善が必要である。一方では、内視鏡検査の対象年齢を上げるなどの意見もある。今後検討されるものなので、このことを意見として反映してもらえればよいのではないか。

建議書で意見が担当課に伝わり、対応方針に反映されることが目的であるため、評価としては統一させて頂き、意見に反映させて頂きたい。

改善・縮小の評価区分は、来年度以降、評価方法を考える中で検討したい。事業番号5のがん施設・集団検診は、拡充の評価とする。

事業番号6の成人歯科健康診査は、現状維持5人を中心に、改善・縮小3人、拡充、再構築が各1人だが、ご意見をいただきたい。

意見一覧では、改善を要求していると見受けられる。

意見は、改善・縮小など現状維持以外の方の意見を記述した。少しでも事業を変更したら現状維持にはならないということではない。皆さんのご意見で評価いただきたい。

皆さんの意見が反映されるのであれば、現状維持でよいのではないか。

評価としては、現状維持で、意見を反映することとする。

事業番号13のアトラボはしもと運営事業は、現状維持5人、拡充4人、再構築1人となっている。

目的に美術館運営に向けてとあるが、事業の性格は何なのか説明いただきたい。

美術館については、建設の計画はあるが、この事業は、展示や展覧会など大学や地域と連携した事業である。

行った事業の進捗や実績での評価としては現状維持でよいと思うが、拡充の意見はどのようなものなのか。

将来を期待してとの意見であった。

新たな事業の内容によっては、現状維持でよいと考えていた。

評価としては現状維持とする。

事業番号22の情報発信事業は、1次評価が現状維持で2次評価が改善・縮小である。改善・縮小が5人で、現状維持4人、拡充1人である。

情報発信は、旅行者・訪問者だけでなく、市民が市内を移動できる情報が必要である。区の魅力をみつけながらイベントなど、いろいろ区ごとに検討しているが、そういう情報は観光事業と捉えていない。

情報の捉え方と観光の意味合いを位置づけ、まずは、市民が相模原市内を移動をするための情報発信が必要である。

現状維持では、見直しを要さないことになり、現状でよいことではないので、改善になるのではないか。

ヒアリングでは、着地型観光を推していた。津久井地域の交通の課題はあるが、市民のリピーターを確保する上で、着地型観光を推進されるとのこと。そのことの情報発信が必要なので、改善とした。

市では、どういう観光の形を目指すのかという意見を評価理由に記述し、評価は改善・縮小とする。

事業番号29のコールセンター運営事業だが、拡充5人、現状維持4人、改善・縮小1人だが、拡充の評価でよいか。

少なくとも拡充ではないと思う。現状カバーできない人にどの程度のサービスを提供するか明確にしないと拡充とはいえない。

応答数、利用者が減っている中で、拡充する必要はないと思う。

充実の方向は必要だが、現状の予算で充実はできる。

予算を含めて現状維持の中で、出来るのではないかと評価した。

情報をどうコールセンターに集約することが重要である。

予算的なものを含め、現状維持とする。

事業番号5、6、13、22、29について確認した。それ以外の事業について、考えが共通だと思われるので、特に意見がなければ、原案のとおりとさせていただきます。

P18は、個別の評価に対しての全体的な意見を付けるところである。
記載されている内容は昨年度のものか。

昨年度のものとなっている。昨年度は、成果指標と活動指標が混同している。目的、事業内容、事業の成果は関連していることを念頭において記述してほしいとの意見があった。

今年度は、個別の評価の意見を見た中では、回数や事業費の増額などの記述がない。成果実績に対する分析がない。総事業費に対する成果実績の進捗、割合などの分析、記述がないなどの意見があった。

先ほどの評価区分で、改善・縮小の区分の混同は、記述していくものと考えている。

この意見欄に対しての意見があればお願いしたい。

昨年度の意見をベースにするのか。

今年度も昨年度に指摘された内容も見受けられたので、記述してもよいと考えている。

評価に対する説明だが、「必要」との記述があるものの、その説明がないものも見受けられた。全体の指標を取りまとめつつ、記述を充実させるよう工夫が必要だ。

評価に対する説明が、事業の目的を繰り返していることが多く、拡充であれば、どのように拡充するのかを記述する必要がある。

現状維持であっても、課題があれば記述すべきではないか。

成果実績を見て、ある程度評価をしたが、成果実績が目的と合致していないことがあった。

目的が記述されているが、今年度の事業の目標、あるいは、3年後の目標などの記述が少なかった。目標があり、そのための活動指標であり、その結果の成果指標となる。

また、方針という言葉が良く出てくるが何の方針かが判らない。

予算については、事業に対してどの程度の予算が必要で、多いのか少ないのかがわからなかった。

建議書等は公表されることを念頭において、シートを作成してほしい旨の意見を記述していただきたい。

了承した。

建議書の作成については、今回の意見を踏まえ修正するが、修正については、委員長の一任とさせていただきたい。

了承した。

(2)平成24年度アクションプランの評価について

評価するアクションプランの事業の説明を行った。

局管理項目も評価するのか。

委員会管理項目の評価をお願いしたいが、局管理項目で特に意見があれば意見を述べることも可能である。

四半期ごとのスケジュールに対して意見することはできるのか。若しくはこのスケジュールを前提にして進捗を判断するのか。

スケジュールを前提にして評価いただきたい。

評価を上げる、下げると意見して、どこの評価が変わるのかも意見するのか。

所管課及び局による評価については、目標達成度と進捗度の合計点で基準に基づき自動的に評価（A～D）されるが、委員会は、これによらず総合的な視点で評価をしていただきたい。

また、所管局の方針や全体に対する意見もいただきたい。

（３）その他

次回の委員会は、１１月５日（火）午後６時の予定とする。

相模原市経営評価委員会委員名簿

氏名	所属団体等	出欠
山口 由紀子	相模女子大学教授	出
川崎 一泰	東洋大学経済学部教授	出
出雲 明子	東海大学准教授	出
霧生 卓	公認会計士	出
田所 昌訓	相模原市自治会連合会	出
長谷川 光明	相模原商工会議所	出
大島 浩之	公募委員	出
西村 初代	公募委員	出
芳賀 貞江	公募委員	出
安田 隆春	公募委員	出